



Fig.2 臨時データロガー観測点、臨時テレメータ観測点および周辺20km以内の定常観測点（東北大学、気象庁、HI-net）の検測値を併合し、Double-Difference法（Waldhauser and Ellsworth, 2001；以下DD法）により求めた余震分布（7/26 17:00 - 8/3 14:00 M ≥ 2.0 ）。速度構造は東北大学ルーチン構造を使用した。（a）震央分布、（b）南北断面図、（c）38.44度以北の余震に対するA-A'断面図、（d）38.44度以南の余震に対するB-B'断面図。●は本震後1日間、○は本震後1日以降の余震を示す。